



地域づくり協議会だより

【発行日】令和7年4月1日 【発行者】木曾川町連区地域づくり協議会
 ☎493-0006 木曾川町内割田一の通り27(木曾川庁舎内)
 【メールアドレス】k-chiiki@orihime.ne.jp ☎84-0005
 【ホームページ】https://138kisogawa.org

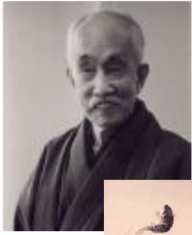
総数	男	女	世帯数
33,784	16,531	17,253	14,881

木曾川町連区の人口(2025.2.1現在)

開催レポート

木曾川町再発見講座(川合玉堂)

活気部会



木曾川町が誇る偉人といえば、なんといっても川合玉堂です。
 川合玉堂は、明治6年(1873年)に、現在の木曾川町外割田西郷中に生まれました。今の木曾川西小学校に入学し、8才で岐阜に転居するまで木曾川の地で過ごしました。いつも一人で地面に絵を描いていました。馬の絵が得意だったそうです。
 この日本画の大家・川合玉堂の業績と生涯を深く知っていただきたく、今年度も1月25日(土)、玉堂ゆかりの「玉堂記念木曾川図書館」を会場に、『木曾川町再発見講座「日本画の大家・川合玉堂は木曾川町出身！」』を開催しました。

初めに、一宮市博物館学芸員さんによる『出前一聴講座』として、「川合玉堂の作品と生涯」をスライドを使って解説いただきました。玉堂が描いた素晴らしい日本画の数々を紹介していただき、改めて川合玉堂の絵画能力のすごさを実感しました。

それに続いて、玉堂終焉の地・東京青梅にある玉堂美術館からご提供いただいたDVDを鑑賞しました。そのDVDには、生前の玉堂の生活ぶりや作品制作の様子が含まれており、参加者にとっては、在りし日の玉堂の姿がよく分かりました。

講座の最後には、図書館3階にある玉堂作品展示スペースに移動し、レプリカではありませんが玉堂作品の数々を鑑賞しました。解説を受けた直後だけに、作品を鑑賞する視点がより深まったのではないかと思います。

今後、東京青梅の玉堂美術館を訪ねる機会がありましたら、ぜひ「生誕の地・木曾川町から来ました！」とお伝えください。



公民館

親子で和菓子作りと茶道体験

楽しかった♪
おいしかった!



2月16日(日)、10時より「親子で和菓子作りと茶道体験」講座を開催しました。木曾川公民館の研修室Aと和室を会場に行いました。この講座は公民館の家庭学習部が「家庭・青少年学習事業」として計画したものです。
 町内3小学校にお願いして、募集チラシを配布していただきました。9組、計21人の方々が親子受講者です。
 講師の指導の下、親子で共同作業の和菓子作りです。真剣な取り組みの中、ときに笑顔いっぱいとても楽しい雰囲気でした。

和菓子を作り終えた後、隣の和室に移動して、「茶道体験」をしました。和服姿の先生のお点前に触れ、皆さん多少緊張している様子が見受けられました。



親子の触れ合いを中心に、多くの方が初めての体験活動でとても有意義な半日でした。



和菓子作り講師
岩田 高志さん

親子で和菓子作りを大変楽しんでいただけました。和菓子という素晴らしい文化を小学生の皆さんに触れ合っていたく機会に貴重で、未来へつなぐことができました。



茶道体験講師
大島 恵子さん

茶室にて、親子で相手のことを思い、無心に茶せんを振る姿はとても微笑ましい光景でした。なかなか茶道に親しむ機会が少ないかとは思いますが、これを機会に伝統ある「茶道」に興味を持っていただけたら嬉しいです。



きそがわ クイズ

春先に、連区を流れる「野府川」の至るところでいろいろな「生き物の集団」が見られます。特に目立つ魚の名前は何でしょう。
 答えは最後のページだよ!



活気部会では、町内3小学校で地域の歴史・文化・自然を学ぶ出前授業を行っています。

小学校3年生対象に『わたしたちのまち 木曾川の今むかし』の授業を、11月11日に木曾川西小学校、2月3日に木曾川東小学校、2月4日に黒田小学校で行いました。また、小学校6年生対象に『郷土の歴史を学ぼう』の授業を、6月20日に木曾川西小学校、2月3日に黒田小学校と木曾川東小学校で行いました。

3年生の授業では、木曾川西小学校区では、「玉ノ井」や「雀のお宿」の地名の由来などの歴史の学習。さらに、校区には、天然記念物「イタセンパラ」の貴重な生息地や「コハクチョウ」が越冬のために飛来する場所があることを学びました。

黒田小学校では、校区を通る古道（源頼朝が通った鎌倉街道・三英傑が通った岐阜街道）のルートや黒田城と山内一豊について学びました。

木曾川東小学校では、門間沼遺跡を通して弥生時代の人々の生活の様子を学びました。また、校区を通る鎌倉街道と岐阜街道についても学びました。

3小学校とも、木曾川（河川）について、日本に数ある河川の中で、長さでは全国第7位、広さ（流域面積）では全国第5位であることを学びました。また、昭和59年ごろと最近の様子を地形図を使って調べました。工場が大きな店舗や住宅に変わったこと、田畑が住宅地になったことなどを見つけてくれました。

6年生の授業では、社会科で歴史の学習をしていることもあり、弥生時代、古墳時代、鎌倉時代、戦国～江戸時代、昭和時代における木曾川町の様子を学びました。特に昭和時代では、太平洋戦争中での一宮空襲の被害、焼夷弾の恐ろしさ、当時の小学生の生活状況などを知りました。過去の戦争の記録を学ぶことで、子どもたちは現在の平和の大切さやありがたさを感じとってくれました。



防災倉庫備蓄品について

今年は、阪神・淡路大震災の発生から30年になります。

その後も東日本大震災、熊本地震、さらに記憶に新しい昨年1月の能登半島地震など近年大地震が多発しています。こうした中、国は今年1月にマグニチュード8～9程度が想定される南海トラフ巨大地震の30年以内の発生確率を、これまでの「70～80%」から「80%程度」に引き上げました。この数字は、いつ巨大地震が起きてもおかしくない数字です。

木曾川町連区地域づくり協議会は、避難所として利用される黒田小学校・木曾川西小学校・木曾川東小学校と木曾川中学校内に設置してある防災倉庫の備蓄品を年1回、点検、補充しています。

学校毎に備蓄してある主な飲食料品は、次のとおりです。

- ・飲料水(500ml) 960本
- ・えいようかん 800本
- ・保存食(山菜おこわ、わかめごはん、ドライカレー) 1,050食



量・内容とも、とても十分ではありません！

災害時に備えて各ご家庭でも、飲料水や非常食を最低3日分、大規模震災の可能性のあるエリアでは1週間分以上の備蓄が必要と言われていています。特に乳幼児や高齢者がいるお宅は、ミルク・離乳食や年齢にあった飲料・非常食の備蓄が必要です。皆さんも今一度災害に備えて、備蓄品について考えてください。

二十歳のつどい

1月12日

今年も二十歳になった卒業生が母校の中学校に集まりました。スーツや着物で華やかな成人さん達。

体育館の前は友達を見つけると「久しぶり～元気にしてた？」と、久しぶりに会う友達に照れた様子や“私…(僕)のこと覚えてくれているかな？”とドキドキしながら、参加した人たちも多かったのではないのでしょうか？「誰だか分かる？」と声掛けられて「う～ん…えっ？〇〇さん？」と驚いている様子も見受けられました。

着物で来た人たちの髪型は毎年流行りがあるようで、アップにしたり、髪を長く後ろで1本や2本にして編んであったり、花や水引や紐などを使い華やかな髪飾りで、どんな風になっているのかじっくり見てしまいました。

当時の担任の先生方との再会。懐かしく写真を撮ったり楽しそうに会話されて、生徒たちの成長した姿や笑顔が見れて先生方も嬉しかったことと思います。会場から出た後も、校内で写真を撮ったり、次の約束をしたり、なかなか名残惜しくて帰りたくなくて、門を閉めるまでたくさんの人たちがいました。卒業した中学校に集まったの『二十歳のつどい』は、これからも続けてもらいたいです。

今年も華やかで、将来が頼もしく感じる楽しい『二十歳のつどい』でした。

保護者 I



地域づくり協議会防災倉庫(黒田小学校)



頼りにしています。町内消防団のみなさん！



木曾川町は伊吹風や乾燥した気候が顕著な地域です。年末年始には特に火災が気になります。あつてはいけないときには消防署をはじめ多くの方々のお力をいただきます。木曾川町内にも3つの『消防分団』があるとお聞きしました。時々、消火栓の点検や訓練をしておいでの場合に出くわすのですが、詳しくは知らないという方が多いと思います。

今回は木曾川北分団長の下山章一さんにインタビューをしました。

◎3つの消防分団の名前と活動していただいている範囲を教えてください。

木曾川北分団、木曾川東分団、木曾川西分団の3分団です。それぞれ、3小学校に1分団ずつあります。私たちは黒田小学校区を担当しています。



◎活動や訓練等について教えてください。

消防団としては水防訓練、七夕警備、年末の特別警戒等の活動がありますが、分団の活動は担当地域の水出し点検、消防車走行訓練、資機材の点検等、もちろん火災が起きた場合は出動要請により消火作業にあたります。

◎私たちが協力できることはありますか。また、団として悩みや問題などはありますか。

当分団の団員の減少に伴い、日常の活動が大変です。担当地区の4区長さんに団員の募集要請をしておりますが、入団者がなかなかいません。このことは他の分団でも同じようです。北分団には2名の女性団員がいます。

男女を問わず、入団をお願いします。

下山章一さんは、この春、分団長をご勇退されます。長い間、お疲れ様でした。



「後輩たちへ 木曾川町から世界へ羽ばたけ」講演会の開催

『メニコン創業者 名誉会長 田中恭一の挑戦とは』

こんにちは！木曾川中学校「おやじの会」です。

木中おやじの会は2008年に発足した生徒たちのお父さんによる学校サポーターチームです。今年度は約30名の会員を中心に学校支援や子ども達との交流をはじめ、楽しく幅広い活動をしています。

今回は12月18日に2年生を対象に、木中おやじの会 企画・運営協力で開催されましたキャリア教育講演会をご紹介します。

木中おやじの会では10数年前より1年生に向けたクラス別の出前授業『仕事を語る会』を開催しています。これは会員はじめ地域の方が講師となり、生徒たちが将来の生き方や生きがいを自分らしく見つけていくヒントになればとの思いを込めて、身近にある仕事の体験からやりがいを話してもらうものです。

今年度はその次のステップとして、時代の流れや多様性をくみつつ、生徒たちが将来への可能性を感じたり夢や希望を抱いてほしいとの思いから、2年生を対象に地元出身の各界成功者や第一人者を知り、身近に感じ触れる機会として「後輩たちへ 木曾川町から世界へ羽ばたけ」講演会の開催に運びました。

その第1弾が『メニコン創業者 名誉会長 田中恭一の挑戦とは』講演です。

コンタクトレンズで有名なメニコンの創業者・田中恭一さんは、木曾川町丸町のご生誕です(昨年3月ご永眠)。戦後、数々の苦難を乗り越え日本初の国産コンタクトレンズを開発し世に送り出しました。今ではさまざまな製品が国内はもちろん、世界各国で愛用されています。田中さんがどのようにコンタクトレンズを作り出したのか、田中さんのもの作りへのこだわりや会社経営の理念などを田中さんのご子息であり、現在、メニコン取締役兼代表執行役会長CEOである田中英成さんに熱く語っていただきました。前例にこだわったり大勢の人の意見に流されたりしてはこれまでにない全く新しいものを生み出すことはできません。失敗を繰り返しながらもアイデアを絞り、自分自身を信じ自らの目を実験台にしてでも挑戦する中でコンタクトレンズは生み出されました。その後も製品改良を重ね、今では視力に悩む世界中の人々の役に立っています。

生徒のみなさんは田中さんのお話を通して、郷土の先輩がどのようにして世の中に役立つ仕事を進めていったのか、とても興味深く聞いていました。自分自身の将来の進路を考える際には、きっと参考になるお話がたくさんあったと思います。

木中おやじの会 会長



カラス被害を防ぐために

カラス注意!



カラスによるごみの散乱が多発しています。カラスの餌になる生ごみの出し方を工夫することで被害を減らすことができます。皆さまのご協力をお願いします。

一宮市 環境部 収集業務課(環境センター内) TEL 45-7004

◎ごみ出しの曜日と時間を守りましょう 当日の朝8時30分までに



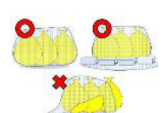
前日や収集後にごみを出すときカラスに荒らされる可能性が高くなります

◎生ごみは紙袋や新聞紙で包んで出しましょう



カラスは目で餌を探します。生ごみを隠すと被害防止に効果があります。

◎ネットに入れて、すきまをつくらないようにしましょう



ごみをネットで包み込むように出してください。少しのすきまでもカラスのくちばしは入ってきます。

きそがわ掲示板

小中学校の入学式

小中学校の入学式
入学式のシーズンです。
小学校 4月8日(火)
中学校 4月9日(水)



新入学児童、生徒の皆さん。おめでとうございます!

小学校始業式 4月9日(水)
中学校始業式 4月9日(水)

春の全国交通安全運動

期間 4月6日(日)~4月15日(火)
市内一斉啓発日(県内一斉大監視日)
4月10日(木)

ストップ・ザ 高めようモラル
交通事故 守ろうルール

木曾川町連区 地域づくり協議会総会

日時 4月18日(金)19時より
会場 木曾川庁舎 2階研修室C

木曾川町連区 公民館役員総会

日時 5月24日(土)19時より
会場 木曾川庁舎 2階研修室C

みんなの コーナー (投稿より)

児童遊園に 時計を設置



東割田にある外割田第三児童遊園に時計を設置しました。
動機の一つは、最近公園で元気に遊ぶ子どもが多くなってきたことです。
散歩やジョギングの途中に休息をとる人々や、小さな子ども連れ家族の姿もよく見受けれます。

当児童遊園は東割田の通学班の集合場所になっております。時には班の出発時刻が遅れたり、遊びに熱中して約束の帰宅時刻を忘れることもあるようです。「時刻を守り、子どもたち皆が安全に登下校し、また遊んでもらいたい」という保護者の声以前から町内会に寄せられていました。市役所には、町内会で設置から維持の管理責任を果たすことで承諾を得ました。

町内の”木工大好き人間”さんに頼み、屋根のある東屋の柱に手作り感たっぷりの時計を取り付けることができました。3学期始業式の登校前に、「この児童遊園で仲良く元気に、そして時間を守り楽しく利用してください」と、お披露目を行って学校へ送り出しました。 東割田町会長 光崎



きそがわクイズ 答え 「鯉」

まだ冷え込むこともある早春の朝、野府川に鯉が産卵を目的に下流より上ってくるのをご存じでしょうか。概ね4月の上旬、ほぼ決まった時期に、いつのころからか繰り返されてきたようです。

私がそれに気が付いたのは20年ほど前でした。深夜、誰かが家の前の川(野府川)で何かしているような「バシャバシャバシャ」という音がします。それが幾度も繰り返されるのです。何事かと窓から川の方を見るのですが、誰もいません。そのまま気にはなるのですが、何日も過ぎました。ある日、昼間に「バシャバシャバシャ」と川の方から聞こえてきました。家の前の宝錦橋(ほうきんばし)から覗いてみると男の人の腕ほどもある「真鯉」が群れをなして上がってきています。水深浅い場所ではその魚体の1/3程度を水面から出して、水しぶきをあげながら野府川を上流に向かって泳いでいます。深夜の音の主は「鯉」だったのです。

それから意識してこの時期になると川面を見るようになりました。鯉がその魚体をくねらせながら上流に遡っていきます。よく見るとやや流れの緩いところで休んでいるもの、流れに任せて下流に向かう鯉もいます。そんな鯉も4月の下旬頃から5月、「こいのぼり」の時期を待たずにぱったりと姿を見せなくなります。産卵の季節が終わったのでしょうか。意外に私たちの身近にも自然の営みがあるようです。

写真が無くて残念ですが、皆さんの目で確かめに行ってください(*^_^*)

西小路住人 N



皆さんからの投稿をお待ちしています。地域の活動などの投稿もお待ちしています
ホームページ「ご意見箱」よりご投稿できます
地域づくり協議会の公式ライン「お友達登録」もお願いします

ご意見箱



ライン

